

## 国際化学肥料ニュース（2024年11月）

### 肥料業界の2024年11月動態

- \* 11月4日のベラルーシ国家通信社の報道によれば、ベラルーシのルカシェンコ大統領は国営ベラルーシ加里（BPC）のAndrey Rybakov社長との会談にロシア側に協議して共同で加里生産量を10～11%削減することを提案した。その理由は加里供給過剰で国際相場が下落したことを念頭に、減産により価格の回復及び国際加里貿易に於けるロシアとベラルーシの重要性を強調することである。
  
- \* 11月第1週（10月28日～11月3日）の尿素国際相場はやや下がっている。東半球ではインドIPL社の尿素国際入札が焦点となり、応札状況が判明されない間に売手と買手が動きづらいため、小幅の下がりには留まって、インドネシアのPupuk社は1.5万トン尿素的の販売入札を取り消した。大粒尿素はイランの減産もあり、中東産のFOB価格が360～385ドル/トンに維持した。西半球ではEUが尿素に対する需要が少なく、バイヤーの動きが鈍いため、エジプト大粒尿素的のEU向けFOB価格が380～385ドル/トンに下がった。南米もCFRブラジルの大粒尿素的価格が370～375ドル/トンに安定している。
  
- \* 11月第2週（4～10日）の尿素国際相場は弱気を現れた。インドIPL社の尿素国際入札の開札を控えて、東半球では中東産小粒尿素的のFOB価格が355～365ドル/トンに、マレーシアとインドネシア産小粒尿素的のFOB価格も360～365ドル/トンに小幅に下がった。  
西半球ではロシア産小粒尿素的のFOB価格が320～330ドル/トンに安定しているが、エジプト産大粒尿素的のFOB価格が355～367ドルに下がった。ナイジェリアDangote社の大粒尿素的販売入札では330ドル/トン台のFOB価格で2件契約した。南米の需要不振で大粒尿素的のCFRブラジルは345～360ドル/トン、アメリカのFOB Nola価格も307～318ドル/トンに下落した。
  
- \* ノルウェーのYara社はブラジルのミナスジェライス州Guaxupéに本部を置くコーヒー協同組合に初めて低炭素肥料を供給した。これらの低炭素肥料はノルウェーにあるYara社のポルスグレン工場が生産したもので、ブラジルのコーヒー栽培の炭素排出量を最大40%削減する効果が期待されているという。

- \* 中国国内に高品質のりん鉱石が不足するため、今年のりん鉱石の輸入量が大幅に増えた。中国税関の通関データによれば、2024年1～9月のりん鉱石輸入量が78.1%増の151.95万トン、9月だけで85.7%増の28.14万トンを輸入した。主な輸入先はヨルダン、エジプト、レバノンであるが、来年以降、シリア産りん鉱石の輸入量を大幅に増やす計画があるという噂。
- \* 11月第3週（11～17日）の尿素国際市場はインドIPL社の尿素国際入札の結果を受け、大きく下落した。インドIPL社は尿素応札の結果を受け、逆にCFR西海岸362ドル/トンで2回の反対提案を行った結果、FOB価格350ドル前後で中東から50万トン近くを購入し、残りはロシア、ナイジェリアなどから調達し、100万トンを確認した。そのあおりを受け、北アフリカでは大きな価格変動が見られ、エジプト産大粒尿素はFOB340～350ドル/トン台に販売し、11月初めの価格より20ドル安く、10月のピークより67ドルも下落した。ただし、この価格は、EUのバイヤーにはまだ受け入れられていないようで、農家の購買意向、為替変動、物流の問題などもあり、多くのEU販売業者や輸入業者は傍観のままである。ほかに黒海の大粒尿素FOB価格が315～325ドル/トン、ナイジェリア大粒尿素のFOB価格が330ドル/トン、CFRブラジル大粒尿素345～355ドル/トンと並みに下落した。
- \* インドIPL社の尿素国際入札は11月11日開札した結果、CFR西海岸362ドル/トンで103万トン契約した。契約した尿素的供給元は中東産尿素（FOB345～350ドル/トン）50万トン、ロシア産尿素（FOB305～310ドル/トン）20万トン、マレーシアPetronas社尿素10万トン、ナイジェリアIndorama社尿素約20万トン。
- \* 中国税関の速報によれば、2024年10月の中国化学肥料輸出量296万トン。その内訳は尿素が99.5%減の0.3万トン、硫安が18.2%増の175万トン、DAPが4.5%増の46万トン、MAPが45.7%減の9万トン。尿素的輸出が依然厳しい規制されている。  
一方、10月の化学肥料輸入量は110万トン。その内訳は塩化加里が11.1%減の96万トン、NPK化成肥料が71.4%増の12万トン。
- \* ブラジル税関の通関データによれば、2024年1～10月のりん酸を含有する肥料（DAP、MAP、NPK化成肥料、NP化成肥料、過りん酸石灰、重過りん酸石灰）の輸入量が前年同期より5.1%増の1120万トンであるが、りん安（DAP、MAP）の輸入量が減少し、逆にモロッコから値段の安い重過りん酸石灰の輸入は急増した。また、最新の船舶先物データと予想貨物量によれば、ブラジルの2024年P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>換算のりん酸系肥料輸入量は510万トンに達し、2023年の530万トンより若干減少するが、2022年の490

万トンより増加する見通しである。ただし、大豆国際価格の低迷が栽培農家の肥料購買力に影響を及ぼすため、2024年通年の $P_2O_5$ 総需要は570万～580万トンと予想されて、2023年の640万トンから減少し、2022年とほぼ横ばいとなる見込みである。その結果、2024年末にブラジルの $P_2O_5$ 在庫は60万トン以上増加し、2025年1月までに在庫量が前年比で最大80%増の150～160万トンに達すると予測している。りん酸系肥料の最大輸入国として、ブラジルの輸入量が減少することが世界のりん酸系肥料相場を引き下げる可能性がある。

- \* 11月第4週（18～24日）の尿素国際相場は供給の圧力を受け、引き続き弱気を表している。東半球ではインドの尿素国際入札が終わり、中東産尿素のFOB価格が340～350ドル／トンで小幅に下落した。

西半球ではロシア産尿素のFOB価格が318～330ドル／トンに安定するが、エジプト産大粒尿素のFOB価格が350ドル／トンに下落した。大きく値下げしたのは南米で、CFRブラジルにはすでに330ドル／トンの売り込みがあるらしい。CFRアルゼンチンも360ドル／トンに下がった。ただし、アメリカの尿素が安定して、FOB Nolaの価格が307～316ドル／トンである。

- \* ベラルーシ通信社の報道によれば、ベラルーシは西側の経済制裁を打破するため、主力輸出商品の塩化加里をロシアの港を通じて輸出することに成功した。また、鉄道を利用して、中国に直輸出の数量も大幅に増え、新記録となった。2024年1～10月、ロシアの港を経由して輸出された塩化加里は昨年同期より18%増の720万トン、中国に鉄道で直輸出された塩化加里数量は24%増の150万トンに達する。2024年ベラルーシ産塩化加里輸出量が昨年の910万トンよりさらに多くなる見通しである。

- \* 中国調査機関のレポートによれば、中国の硫安生産能力は2022年に2089万トンに達し、実生産量1585万トンである。また、2023～2025年、中国は34ヶ所の硫安生産ラインが新設され、生産能力がさらに440万トン増加する見込みである。その内訳はカプロラクタム副産硫安387万トン、コークス副産硫安53万トン。従って、硫安生産能力は2025年に2250万トン、2030年に2400万トンに達する見通しである。新設カプロラクタム副産硫安の最大工場は中国石油南京化学の90万トンと湖北三寧の60万トンである。中国国内硫安消費量が年間250～350万トン程度で、生産された硫安の80%以上は輸出される。

- \* 11月第5週（25～12月1日）の尿素国際相場は弱気で、輸出地と輸入地の価格が全面下落した。東半球では中東尿素FOB価格が335～340ドル／トンと売出したが、実際

の契約価格が 330～335 ドル/トンであった。イラン尿素が大量在庫しているため、FOB 価格が 285～295 ドル/トンで 300 ドル以下に下がった。西半球ではエジプト産大粒尿素の FOB 価格が 355～360 ドル/トン、ナイジェリアは FOB 315～320 ドル/トンで 3 船の大粒尿素を販売し、アゼルバイジャンも FOB325～330 ドル/トンで 3 万トン尿素を販売した。CFR ブラジル価格が 325～342 ドル/トンに下落して、6 月以来の最安値となった。アメリカの FOB Nola 港価格も 307～315 ドル/トンにやや下がった。

- \* 中国産りん安（DAP、MAP）の輸出に対する「法定検査」の新規申請は 12 月 1 日から一時停止された。最新の輸出規制を実施する主な理由は原材料価格、特に硫黄の高騰により、中国国内の DAP と MAP 価格が急騰したことで、国内価格の上昇を抑えるために輸出を抑制する目的である。ただし、すでに輸出の「法定検査」を申請した事例ではその承認許可をめぐる状況はあいまいで、12 月 1 日までに通関手続きを終えた貨物のみの輸出が許可されるという見方もあるが、11 月末までに輸出の「法定検査」を申請したとしても再度の確認が必要であるという見方もある。

中国メーカーと商社は、すでに 12 月から 2025 年 4 月までに 75 万トンの DAP と MAP を手配して、「法定検査」の申請を行ったか行う予定かであるが、複数の中国サプライヤーから 12 月に出荷予定だった DAP と MAP 貨物の多くが現在キャンセルされ、承認されれば 1 月まで延期すると報告している。元々今年の DAP と MAP の輸出割当数量は 650 万トンと規定されて、1～10 月の輸出量が合計 540 万トンであった。

現時点では、SSP（過りん酸石灰）、TSP（重過りん酸石灰）、NPK 化成肥料などのリン酸を含有する肥料製品に対する輸出規制の兆候はなく、規制対象は DAP と MAP および工業用 MAP のみである。

## 大手各社の営業業績

- \* ポーランドの Grupa Azoty 社は 2024 年第 3 四半期の業績を発表した。売上高 30 億 8500 万ズウォティ（約 7 億 7125 万ドル）、EBITDA マイナス 1 億 2000 万ズウォティ（約 3000 万ドル）。2024 年に EU の肥料および化学産業における需要不足などに加え、外部から廉価品（ロシア品）の輸入による圧力に直面し続けており、Grupa Azoty 社の第 3 四半期の肥料販売は前年比 9%減となり、窒素肥料は 6%減、化成肥料は 18%減となったことで、赤字から抜けていない。

- \* イスラエルの ICL 社は 2024 年第 3 四半期の業績を発表した。ガザ地域衝突の影響で、加里生産量が 2.5%減の 108.5 万トン、販売量が 15.9%減の 106 万トン、連結売上高が 5.9%減の 17 億 5000 万ドル、営業利益が 5.7%減の 2 億 1400 万ドル。販売量の減

少は主に中国とインドへの輸出量の減少に由来するものである。ただし、EBITDAが10.7%増の3億8300万ドル、調整後の営業利益が7.0%増の2億4300万ドル。加里価格の低下にもかかわらず、EBITDAが4四半期連続改善した。

- \* インドのIPL社は2024肥料年度の業績を発表した。税引後純損失が3億1,100万ドル（23年度は5億6,000万ドルの黒字）である。赤字の原因は主にオーストラリアのクイーンズランド州ギブソン島の肥料製造工場の閉鎖に伴い発生した7億1,200万ドルの損失のほか、アメリカ肥料事業の非現金減損、分離費用、事業変革費用などもある。
- \* 世界最大の窒素メーカーと輸出業者のアラブ首長国連邦（UAE）のFertiglobe社は2024年第3四半期の業績を発表した。自社産アンモニア30.5万トン、自社産尿素105.6万トンを含む137.9万トンの尿素を販売した。売上高4億9,600万ドル、調整後EBITDA1億7,600万ドル、調整後純利益3,100万ドルである。
- \* アメリカのMosaic社は2024年第3四半期の業績を発表した。りん酸肥料を含むりん酸塩製品販売量が12%減の150万トン、加里肥料販売量が9%減の200万トン、化成肥料販売量が6.5%減の290万トン、ともに減少した。販売価格の下落で、売上高が21%減の28億ドル、EBITDAが24.6%減の4億4800万ドルだが、純利益が1億2200万ドル黒字、前年同期の420万ドルの赤字から脱出した。
- \* ドイツの加里メーカーK+S社は2024年第3四半期の業績を発表した。売上高が1.7%減の8億8100万ユーロ、EBITDAが8.3%減の6600万ユーロ。
- \* スウェーデンのCinis Fertilizer社は2024年第3四半期の業績を発表した。硫酸加里工場が完成し稼働して、最初の製品をVan Iperen International社に納入した。第3四半期の売上高は1,540万スウェーデンクローナ（約140万ドル）、営業利益が2,710万スウェーデンクローナ（約249万ドル）の赤字。ただし、工場が順調に稼働して、製品硫酸加里の出荷も順調で、来年から黒字に転換されるという見通しも発表した。
- \* アメリカのアンモニアおよびUAN（尿素硝安液肥）メーカーであるCVR Partners, LP社は2024年第3四半期の業績を発表した。第3四半期のアンモニア生産量21.2万トン、そのうち外販量6.1万トン、残りは社内にUANなどの窒素肥料生産に供される。肥料販売価格の下落で、売上高が4.6%減の1億2500万ドル、EBITDAが12.5%増の3600万ドル、純利益が300%増400万ドルである。

\* ラオスに進出した中国系のアジア加里社は 2024 年第 3 四半期の業績を発表した。売上高が 9.7%減の 1 億 900 万ドル、純利益が 47.9%減の 3400 万ドル。なお、1~9 月の塩化加里生産量が 12.5%増の 132.37 万トン、販売量が 4.3%増の 124.14 万トン。

## 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

\* 11 月 7 日中国華魯恒昇の荊州尿素プロジェクト第 2 期 52 万トン尿素の新規稼働が始まった。ほかに 29 の新規尿素プロジェクト、生産能力合計 1968 万トン（新規増加分 1868 万トン）が建設または計画中である。

下表は中国国内建設中または計画中の新規尿素プロジェクトの一覧である。

会社名	所在地	生産能力（万トン）	完成予定時期
華魯恒昇荊州第 2 期	湖北省荊州市	52	2024 年 11 月
七台河勃盛	黒竜江省七台河市	20	2024 年 11~12 月
陝西煤化	陝西省渭南市	80	2024 年 12 月
甘肅劉化	甘肅省白銀市	35	2024 年 12 月
四川金象賽瑞	四川省眉山市	50	2024 年 or 2025 年
江蘇晋煤恒盛	江蘇省徐州市	60	2024 年 or 2025 年
新疆奥服化工	新疆	50	2025 年
新疆新晋エネルギー	新疆瑪納斯県	120	2025 年
甘肅能化金昌	甘肅省金昌市	30	2025 年
甘肅劉化第 2 期	甘肅省白銀市	35	2025 年
山東晋控日月新材料	山東省済南市	20	2025 年
河南中盈	河南省安陽市	100	2025 年
広西心連心	広西省桂平市	65	2025 年
九江心連心	江西省九江市	80	2025 年
内モンゴル烏蘭	内モンゴル興安盟	35	2026 年
内モンゴル天潤第 2 期	内モンゴルオールドス市	52	2026 年
江蘇徳邦興華	江蘇省連雲港市	30	未定
湖南省軽工塩業	湖南省衡陽市	50	未定
新疆中能（哈密）	新疆哈密市	200	未定
新疆心連心	新疆昌吉州	120	未定
新疆タリム石油化学 （工場移転）	新疆タリム市	120 （40 万トン新增）	未定
新疆中威の光 （グリーンアンモニア）	新疆バインゴリン・モンゴル自治州	120	未定
新疆呉源	新疆	100	未定
湖北晋控ガス	湖北省宜昌市	80	未定
内モンゴル億鼎	内モンゴルオールドス市	52	未定
内モンゴルオクト旗建元	内モンオクト旗	40	未定
河北正元滄州第 2 期	河北省滄州市	52	未定
江蘇双多化工	江蘇省塩城市	100	未定
河南安陽化学	河南省安陽市	40	未定
雲南解化（工場移転）	雲南省紅河州	60	未定
合計： 30 プロジェクト		新規増加生産能力：1868 万トン	

- \* カナダの **Genesis Fertilizers** 社はカナダのサスカチュワン州 **Belle Plaine** 地域に 1 日 1500 トンのブルーアンモニアを生産する肥料工場を建設する。当該 工場が完成すれば、年間 105 万トン低炭素窒素肥料を生産することになる。韓国 **CARBONCO** 社の二酸化炭素捕集・活用・保存(CCUS)技術を利用して年間最大 100 万トンの CO2 隔離を目標にする。すでに韓国 **DL E&C** (**CARBONCO** 社の親会社) と **FEED** 契約した。
- \* インドの **Hygenco** 社はオリッサ州 **Gopalpur** にグリーンアンモニア工場を建設し、デンマーク **Topsoe** 社のグリーンアンモニア技術を使い、生産するグリーンアンモニアを欧州市場に輸出する計画である。フェーズ 1 はグリーンアンモニア生産能力 750 トン/日で、2027 年までに稼働する予定である。フェーズ 2 とフェーズ 3 の着工は未定である。
- \* スイスの **Atlas Agro** 社は 2025 年末までにアメリカとブラジルにある 2 件の低炭素窒素肥料生産プロジェクトへの 3 億 2,500 万ドルの投資決定を最終的に承認すると発表した。アメリカワシントン州 **Richland** にある **Pacific Green Fertilizer (PGF)** とブラジルミナス ジェライス州 **Uberaba** にある **Uberaba Green Fertilizer (UGF)** プロジェクトは再生可能エネルギーを使用してグリーン水素を生産し、グリーン窒素肥料の生産に供するもので、温室効果ガス排出量を 99% 削減することができるという。
- \* 11 月 29 日、カタールの **Qatar Energy** 社はブルーアンモニア工場の建設を開始した。この工場は、年間アンモニア 120 万トンの生産能力を持つ製造ユニットと、年間 150 万トン CO2 の注入・貯蔵用の追加ユニットで構成されている。ブルーアンモニア工場としては世界最大規模、投資額 44 億カタール・リアル (約 11.9 億ドル) で、生産されるアンモニアは主に低炭素窒素肥料の生産に供するという。
- \* アンゴラの **OPAIA** グループはアンゴラの **Soyo** に窒素肥料工場を建設する。当該 **Amufert S.A.** 工場の生産能力が尿素 4000 トン/日、総投資額 20 億ドル、そのうちアフリカ輸出入銀行が 14 億ドルを融資する。**KBR**、**TOYO** エンジニアリング、**WeDO**、武漢エンジニアリングなど世界的に有名な技術企業と提携して、2025 年に着工し、2027 年末に完成・稼働する計画である。
- \* オーストラリアの **Minbos Resources** 社がアフリカのアンゴラに開発中の **Cabinda** りん酸肥料プロジェクトは資金と現地の問題で、その完成と稼働が予定より 1~2 年遅れることが判明された。現時点ではりん鉱山が 2024 年末に採掘が開始し、2025 年にりん

鉍石を出荷する。りん酸肥料工場は 2024 年末に着工し、2025～2026 年に稼働するという。

## その他

- \* カナダの国際港湾倉庫労働組合 (ILWU) は 11 月 4 日午前、バンクーバー港などの西海岸港湾に限定的なストライキを開始した。一方、雇用側のブリティッシュコロンビア海運雇用者協会 (BCMEA) は同日午後に港のロックアウトを実施した。バンクーバー港は毎日 2.1 万トン以上の塩化加里を輸出する重要な港で、閉鎖により、加里業界は 1 日あたり 970 万ドルの売上損失を被ることと推定される。前回 2023 年の西海岸港湾のストライキにより、肥料業界は 1 億 2,600 万ドル以上の損害を被り、解決までに 13 日を要した。
- \* ベルギーに本社がある多国籍企業 Tessengerlo Kerley はアメリカの投資ファンド Platte River Equity 社からアメリカの硫黄系肥料専門メーカー Tiger-Sul 社を買収したことを発表した。買収は 2024 年 11 月 6 日に完了した。
- \* アメリカ商務省 (DOC) は、モロッコ産リン酸肥料に対する相殺関税 (CVD) 命令の第 2 回行政審査の最終結果を発表した。最終結果では、アメリカに輸入されるモロッコ産リン酸肥料の暫定関税率を 14.21% から 16.81% に引き上げた。なお、この新しい税率は 2022 年にアメリカに輸入される品目の最終関税率として遡及的に適用される。モロッコの OCP 社はアメリカ商務省の行政審査に重大な欠陥があり、アメリカ国際貿易裁判所にリン酸肥料の相殺関税に対する控訴を継続すると発表した。
- \* カナダの fertilizer Canada 社は 11 月 4 日から始まった西海岸港湾のストライキにより加里肥料輸出が停滞して、fertilizer Canada 社に 1 日あたり 970 万ドルの販売損失を与えるうえ、カナダの加里肥料輸出先が競争相手のロシアやベラルーシに奪われる恐れがあると声明を発表した。2023 年に発生したバンクーバー港の 13 日間ストライキが加里業界に約 1 億 2600 万ドルの損失を与え、インドネシアやマレーシア市場のシェアの大部分が失った痛い過去がある。fertilizer Canada 社はカナダ政府に労使関係がねじれた時期も化学肥料の輸出に支障が出ないようにストライキや港のロックダウンを制限するよう「カナダ労働法」の改正を要求する。
- \* イギリスの調査会社 Technavio 社は世界のグリーン水素市場規模は 2024 年から 2028 年にかけて 462.5 億米ドルに増加との予測を出している。ただし、再生可能エネルギーを使用して水の電気分解で生成されるグリーン水素は、天然ガスから得られるグ

レー水素に比べて初期コストが高くなり、特にグリーン水素製造プラントの設置コスト大きな比重を占めている。平均すると、グリーン水素の製造コストはグレー水素の約 2 ～ 3 倍で、グリーン水素発電に使用される燃料電池の価格は、化石燃料の燃料電池の 1.5 ～ 2 倍である。また、航空機に使うグリーン水素の合成燃料は、化石ジェット燃料の約 5 ～ 7 倍である。エネルギー資源研究所 (TERI) によると、グリーン水素の生産コストは 1kg あたり約 5 ～ 6 セントです。このコストでは、鉄鋼、肥料、長距離輸送などの業界では、グリーン水素を燃料源として採用することは経済的に不可能であるとも強調した。

\* アメリカのウィスコンシン大学マディソン校、パデュー大学と Pivot Bio 社の研究者による共同研究で、遺伝子編集によって微生物が大気中の窒素を固定し、それを穀物作物に移すことができる初めての論文が発表された。研究者らは同位体標識窒素を使用して、空気中の窒素をトウモロコシの葉のクロロフィルまで追跡し、遺伝子編集された微生物が窒素を空気から固定したという証拠を示した。また、現地調査では、これらの微生物が最大 40 ポンドの合成窒素肥料に匹敵する窒素を固定し、同様の収量で供給できることも確認された。これによって遺伝子編集された微生物が農家に新たな窒素源を提供する可能性が示される。

\* カナダの国際港湾倉庫労働組合 (ILWU) が 11 月 4 日から行っていたカナダ西岸 (バンクーバー港、プリンスルパート港) および東岸 (モントリオール港) でのストライキは、政府の介入により 11 月 13 日に終結し、14 日から業務が徐々に再開される見込みである。カナダの労働大臣は、今回のストライキによって 1 日あたり 13 億カナダドルの損失が発生しており、貨物の滞留と混雑解消には数週間を要する見通しであると述べた。また、政府の介入によるストライキの強制終了に対して、(ILWU) は、政府の命令に法的異議を申し立てる意向を示しており火種は残っている状況である。

\* ドイツ通信社の報道によれば、11 月 21 日、EU 委員会の外交と貿易会議に於いて、EU 委員会貿易担当大臣 Valdis Dombrovskis 氏は、EU がロシアとベラルーシから輸出される農産物と化学肥料に対して輸入関税を徴収することを考えていると表明した。また、翌 22 日、ポーランドの貿易大臣 Jakub Jaworowski 氏はロシアとベラルーシからの化学肥料輸入を規制するために 30～40%の輸入関税を徴収する必要があると発言した。

2024 年に入ってからロシアとベラルーシは厳しい経済制裁を逃すおよび国内経済を立て直すために安値で化学肥料を大量に輸出して、8 月だけで EU 向けに 330 万トン

輸出した。そのうちポーランドへの輸出量 85.7 万トン、フランスへの輸出量 38 万トン、EU の化学肥料産業に大きな衝撃を与えた。

- \* カナダの農業食品大臣 Lawrence MacAulay 氏はアグリイノベーションプログラムを通じて、4 社の 4 つのプロジェクトに 720 万カナダドルを超える投資を行うことを発表した。革新的な技術を通じてカナダの農業産業の成長を促進し、持続可能性を高めることを目的として、オンタリオ州セントアンズにある CRO Quail Farms 社に最大 165 万カナダドル、ケベック州トリングジョンクションの KSM 社に最大 500 万カナダドル、ケベック州ケベックシティにあるソリューション Aleop 社に最大 37 万カナダドル、ケベック州ロンゲールにある Axceta 社に最大 26 万カナダドルをそれぞれ投資する。
  
- \* カナダ政府はサスカチュワン州シルバイトの S4-6 組織に 50 万カナダドルを支援すると発表した。S4-6 は、サスカチュワン州東部中央部の自治体と先住民コミュニティがサスカチュワン州ジャンセン近郊の BHP の加里鉱山の開発に伴って地域開発パートナーシップ組織を結成したものである。カナダは世界最大の加里生産国および輸出国であり、国内の加里生産はすべてサスカチュワン州に集中している。大規模な新しい加里鉱山の開発を成功させるにはそれを支えるコミュニティの重要な役割にかかっていると認識し、S4-6 がすでに BHP から 50 万カナダドル、サスカチュワン州政府から 25 万カナダドルの支援を受けている。